

MITSUBISHI PAJERO IO

165 比較的小さなベース車両の性能や使い勝手を犠牲にせず、たくさんのユニットを搭載しつつ、見せる要素と両立させるインストールに工夫が必要だったというダッシュボード周辺。使い続けたヘッドユニット・カロッツェリア・DEH-P077や、HDDナビ本体をセンタークラスターに、念願の5.1chシステムをコントロールするアルパインのマルチメディアマネージャーの表示部をグローブボックスの上にインストールしている。さらにマルチモニターも実現!

2 ミッドベース×2発をフロントドアに投入。

3 カロッツェリアのMDチェンジャーを、使い勝手を考え、センターコンソール部に装着。

4 センタースピーカーとメインモニターは、ダッシュボードに一体インストールだ。

5 キッカーの2ウェイスピーカー・KS5.2のツイーター×2発をAピラーにセット。

768 DVDチェンジャーやアルパインのパワーアンプをフロアに埋めたラゲッジスペース。

犠牲を最小限にするために、サブウーハーは両サイドに薄く取り付けているが、ボディパネルいっぱいまで型取りをして、FRPで異形ボックスを作って容量を確保! アルパインのパワーアンプもリアシートに埋め込むことで、フルフラット機能も犠牲にしている。

ちなみにオーディオの音質向上と車内の静寂性向上のため、オーナーのハンドメイドで全面デッドニングしている。

9 リアスピーカーにはキッカーのコアキシャル・K65をDピラーにインストール。

10611 購入して5年がたつパジェロイオをシアターカーに仕上げた林サン。ショップと立てた綿密なプランが実を結んだのだ。

思い入れあるユニットを大切に残して、パワフルシアターシステムに着実に進化。



この98年型パジェロイオは、オーナーにとって初めての愛車。そんな思い入れのある一台を長く乗り続けていけるように、5.1chでライブDVDや映画を、リアルな良い音で再生できるシステムを製作した。

アルパインのマルチメディアマネージャーとDVDチェンジャーを使って、5.1chシアターシステムを構成したこのクルマ。パワーアンプはアルパイン、スピーカー類はキッカーで統一されているが、最大のポイントはフロントドアのダブルミッドベース。見た目のインパクトはもちろん、パワフルかつタイトで

スピード感のあるサウンドを見事に作り出している。また、ラゲッジスペースを確保するための薄型ウーハーボックスや、フルフラット機能を生かしたリアシートの埋め込みパワーアンプなど、ベース車両の性能や使い勝手を犠牲にしないインストールテクも秀逸だ。

2chから5.1chシアター、マルチアンプ、マルチモニターと、段階を踏んで一歩一歩ゴールを目指してきたパジェロイオ。「まだまだ進化します!」とのことなので、これからも大切な愛車と一緒にカーオーディオライフを満喫してくださいね〜!

パワー&テクニクの源を公開!



2Ωステレオ接続でパワーが倍増っ!

この車の最大の特徴といえば、「効果が絶大だった」というフロントドアのダブルミッドベースだ。キッカーのKS5.2をセレクトしたこのシステムは、2Ωステレオ接続によりパワーを倍増し、パワフルかつタイトでスピード感のあるサウンドを実現する。これなら迫力のシアターサウンドが楽しめるハズだねっ!



オーナー/林 宏和サン (愛知県名古屋市)
 ベース車/パジェロイオ 98年型
 製作ショップ/ホットワイヤード TEL:052-262-8831
 PHOTO/御澤 徹

